

日にち：令和8年7月17日（金）
場 所：図書館交流プラザりぶら 1階ホール

誓いの言葉

1945年（昭和20年）7月20日、岡崎市には数時間にわたり12,000発を超える焼夷弾が投下され、約280人の尊い命が奪われました。容赦ない空襲により一瞬で火の海と化し、町は見る影もないほど壊滅しました。

多くの市民が家や家族を失い、衣食住さえままならない、極めて過酷で絶望的な日々を送らざるを得ませんでした。恐怖と苦しみと、どうにもならない悲しみを、全身で受け止め、それでも懸命に生き抜いた方々がいました。そして今も、その記憶を抱えて生き続けている方々がいます。

今の岡崎市は四季折々の自然に彩られた、美しく穏やかなまちです。子どもたちの笑い声が響き、家族が安心して暮らし、地域がつながるこの日常は、決して当たり前のものではありません。命懸けで守ろうとした家族、まち、そして未来。その積み重ねの上に私たちは今、こうして生きているのです。

世界では今もなお、戦争や紛争で多くの人々が亡くなり、傷ついています。戦争は深い悲しみや苦しみを生み、そこからは互いを憎む心しか生まれません。

すべての人々が平和な世界で安心して暮らすためには、互いの違いを認め合い、他人を思いやることが大切なのではないでしょうか。一人一人の力は小さくても、思いやりの心を次世代へ繋ぎ、互いに助け合うことができれば、いつか世界から紛争や戦争の原因となる憎しみをなくせると私は信じています。

先人から託された、この緑美しい街岡崎を失わないよう、そして日本が再び戦争の惨禍を起こすことがないように、私たちは平和を強く願い、その大切さを未来に繋いでいくことを誓います。

令和8年7月17日

岡 崎 大 学 津 居 幸 恵